

ブレインバンクに献体をご了承頂いたご家族皆様へ  
(研究に関する情報)

当院ならびに関連施設では下記の臨床研究を実施しております。

本研究の対象者に該当する可能性のある方で、研究への協力を希望されない場合は、下記に記載されている研究の担当者までお知らせください。なお、研究への協力を希望されない場合は、いつでも拒否ができ、そのために診療上で不利益を被ることはありません。

研究課題名	アルツハイマー病における脳内アミロイドオリゴマーの神経病理学的研究 (福祉村病院倫理委員会承認番号#403)
当院の研究責任者	福祉村病院長寿医学研究所 研究員 赤津 裕泰 (名古屋市立大学医学研究科 教授)
他の研究機関および各施設の研究責任者	滋賀医科大学経難病研究センター神経診断治療学部門 教授 遠山育夫、特任助教 加藤智子、准教授 柳沢大治郎、研究医 景山裕介 福祉村病院神経病理研究所 所長 橋詰良夫 京都大学農学研究科食品生物科学専攻食品生命科学講座 教授 入江 一浩
本研究の目的	本研究の目的は、アルツハイマー病、その他の変性疾患、非神経疾患対照例で、A $\beta$ オリゴマーの局在や量を明らかにし、アルツハイマー病発症との関連を明らかにする。発症前、軽度認知障害、アルツハイマー病の各ステージにおける患者剖検脳を用いて、ヒト脳内の A $\beta$ オリゴマーの局在と量を病理学的に検索することで、アルツハイマー病の脳病理の進行における A $\beta$ オリゴマーの役割を明らかにする。これらのデータは、A $\beta$ オリゴマーを標的にしたアルツハイマー病の診断法、治療法の開発に向けた重要な基礎データとなる。
対象者該当期間	福祉村ブレインバンクに保管されている全症例。
研究の方法	固定標本で A $\beta$ オリゴマー、A $\beta$ やタウ蛋白、リン酸化タウ蛋白、 $\alpha$ シニクレインなどの神経難病原因タンパク質の局在を検討するとともに、凍結標本で、ELISA 法や Western blots 法で A $\beta$ オリゴマーの発現量を検討する。
個人情報の取扱い	長寿医学研究所個人情報管理者によって適切に管理される。
お問い合わせ先	名古屋市立大学大学院 医学研究科 地域医療教育学(秘書宛) 〒467-8601 名古屋市瑞穂区瑞穂町字川澄 1 TEL 052-853-8527 (内線 8527)
備考	[2020.7/31 更新] 滋賀医科大学倫理委員会・変更申請承認 ・期間延長：2024年3月31日まで延長。 ・使用症例数変更：アルツハイマー病 10→30例、対照症例 10→20例。